

情熱が生む独自技術

備後にはユニークな技術を駆使する企業が多い。その技はデニムにも応用される。各社とも「他社にはないものを」という開発への情熱が、メード・イン・ジャパンのオリジナル性の高さを支えている。

備後撚糸(光成猛社長)は撚糸技術を駆使した独自の水撚り製法という和紙糸を開発した。その和紙糸を緯糸に使った和紙糸デニムが、あるこだわりブランドで500着分が採用され、引き続き300着分を追加受注している。ジーンズには着物の端切れも縫いつけており、3万—4万円と高価であるが、和柄デニムとして好評を博している。上代価格2万円以上する複数のブランドからも新たな商談が入っている。

水撚り製法は同社が約7年かけて開発した。和紙をスリット状にして、水分を乾燥させずに、安定的に浸しながら撚りをかける。糸は紙であるため軽く、和紙独特の柔らかさ、風合いを持つ。織布は地元のデニムメーカーが行っている。